

鉄鋼標準化センター

1. 9月度トピックス

(1) 国際標準化関係

1. ISO 理事会, 執行評議会 (EB) 会議

1992年度会議が9月16/18日間ジュネーブで開催された。

(1) ロシアが従来分担金の62%を支払い理事会EBに復帰 (TBからは落ちた)。

(2) 現在のISOの上部機構である、総会、理事会、EBの組織変更を行う予定。このため1993年に臨時総会を開催。

(3) ISO活動のための各国分担金は過去10年間平均7%上昇。(日本は約1.2億円)。その上にスイスフランに対し弱い通貨を持つ国にとっては上昇率はさらに一層高く支払いがむずかしくなるかも知れないとの発言もあった。

2. ステンレス鋼の国際統一化に向けて

ASTMグループとECISS (ヨーロッパ) グループの合同会議が10月26日~28日にフィラデルフィアで開催。これに日本からも参画(日本冶金2名, 日本金属工業1名)。

3. TC17 (Steel) 関係の1992年ISO規格発行件数は1~8月実績で9件, これに今年中に発行予定7件を加えて16件と過去5年の平均(16.2件/年)レベル。

4. API規格のISO化に当たり, TC67/SC5ではAPI規格との整合性の維持のため, ISO規格についてAPI規格と同時期, 毎年の改正を計画。ISO中央事務局から原則的な了承を得ており, 第2回TC67/SC5会議(神戸)にて決定の予定。ISO規格は一般には5年毎に見直される。

(2) 国内標準化関係

1. JISマーク表示の許可又は承認に係る審査事項及び審査基準の改正

平成4分10月1日付で通商産業省・運輸省告示第1号が公布, 即日施行。

従来のJISマーク表示の許可(承認)審査基準(旧基準)とは別に, 品質システム規格JIS Z9902を利用した新たな許可(承認)審査基準(新基準)を設置。これにより今後JISマーク表示の許可(承認)審査は, 旧基準又は新基準のいずれかの基準によって行われる。

今回の改正によってJISマーク表示許可(承認)制度を利用しやすくすると共に鋳工業品の品質保証の確保及び国際取引の円滑化が期待。

2. JISC鉄鋼部会規格調整専門委員会が, 9月10日及び9月24日に開催, 次の規格案が承認。

- 鉄鋼の窒化硬化層深さ測定方法, 鉄鋼の窒化層表面硬さ測定方法, 金属材料の高温ヤング率試験方法, 異形線ロープ, 放置法による漏れ試験方法, アンモニア漏れ試験方法, 磁粉探傷用交流極間式磁化器 以上新規7件

- 鋼の渦流探傷試験方法, 金属材料のパルス反射法による超音波探傷試験方法, 鋳物砂の試験方法 以上改正3件

3. 鉄鋼標準化事業の中長期計画基本方針とJIS原案審

議の為の三者構成委員会設置案が標準化委員会, 鉄鋼標準化センター運営委員会で承認。今後は基本的にこの方針にもとづいて計画, 実行される。

4. 現状標準化委員会/各分科会の緊急課題

工業技術院から委託された来年見直し時期のくるJIS48規格をISO規格との整合を考慮に入れて確認, 改訂, 廃止の判断をする為の膨大な作業。

特に鋼管関係が27規格と多く大変。

この1次の報告は11月10日の鋼材JIS見直し調査委員会で報告・審議。

2. 標準化活動状況

(1) 委員会・分科会活動

1) 鉄鋼標準化センター運営委員会

9月30日神崎委員長他16名の委員出席のもとで会議を開催し6件の報告と2件を審議。特に報告では, 7月1日に発足した標準化委員会/分科会の組織がかたまり順調に活動がスタートした事, 来年度の予算編成には, 事業規模ではなく事業費総額で今年度並とし, 約4%強の緊縮予算となる事が注目。また審議は鉄鋼標準化事業中長期の基本方針, 三者構成委員会のもち方について行なわれ, いずれも原案通り承認。

2) 標準化委員会

9月28日荒木委員長出席のもとで会議を開催。標準化委員会/分科会活動状況報告, 平成4年度JIS見直し調査三者構成委員会発足の報告, 鉄鋼標準化事業中長期基本方針と今後のJIS原案審議の為の三者構成委のあり方を審議。

3) 鉄鋼標準化委員会/運営分科会

9月7日第3回会議開催。鉄鋼標準化事業中長期の基本方針, 三者構成委員会のあり方, 鉄鋼協会80周年記念事業について討議。

4) 審標準化委員会/JP1分科会(構造用鋼関係)

9月24日1回目のキックオフミーティングを実施。ISO/TC17/SC15(レール関係)に対応するWGが設置される事, 各委員の規格毎の分担が決定。今後の方針は建築用鋼材規格の検討と, JISをISOへ提案する(TMCP鋼など)活動を推進。当面の緊急課題は, JIS見直し調査2件への対応。

次回は11月9日に会議開催。

5) 標準化委員会/JP3分科会(薄板関係)

9月8日第1回目のキックオフミーティング実施。組織的にはブリキ関係, 亜鉛鉄板関係の2つのWGを設置。また, 規格毎に担当委員を決定。当面の課題はJIS見直し調査1件への対応。

次回は10月14日に会議開催。

同日当分科会WG1(ブリキ関係)の会議を東洋鋼鉄黒田副主査のもとで開催。

課題はISO/TC17/SC9のブリキ関係3件のCD投票対応。基本的には国際会議で日本意見が大半受け入れられた内容故賛成投票と決定。

6) 標準化委員会/JP4分科会(特殊鋼関係)

ISO規格化で問題となるステンレス鋼の成分に関してASTMグループとECISSグループの調整会議が10月

20 日～28 日にフィラデルフィアで開催される。ASTM の Mr. Tyson の呼びかけで日本も 2 名(日本冶金)参画。
7) 標準化委員会/JP5 分科会 (線材関係)

多品種にまたがる為組織作りに手間取ったが、関係団体との調整も終り、ワーキンググループを 3 つ(線材関係、鉄筋関係、PC 鋼棒関係)もつ事になる。鉄筋関係は普通鋼電炉工業界の協力を得て電炉メーカーから新たに 3 名(計 5 名)参画。第 1 回キックオフミーティングは 10 月 2 日。

8) 標準化委員会/JP6 分科会 (鋼管関係)

9 月 9 日第 1 回目のキックオフミーティング実施。工業技術院より依頼を受けた来年見直し時期のくる JIS27 規格について ISO 規格との整合性を考え、その進め方(規格毎の分担会社、および対応をとりやすくする方法等)について討議。次回 10 月 13 日に継続審議する。

9) 標準化委員会/JP7 分科会 (油井・油送管係)

9 月 11 日第 2 回分科会を実施。9 月 28 日～30 日デュッセルドルフで行われる TC67/SC1 国際会議での DIS 3183 (ラインパイプの技術的出荷条件)に望む日本意見の詳細調整を実施。TC67/SC1 事務局へ発送。上記会議出席者は、新日鉄、川鉄、住金、鉄鋼協会。

10) 標準化委員会/JE 1 分科会 (基本規格関係)

9 月 2 日第 1 回目のキックオフミーティング実施。基本方針としては、今後 5 カ月間で規格内容を研究して今後の進め方を決定。

規格毎に担当委員が決定。又当面の課題として ISO/TC17/SC20 国際会議対応があり、その課題である CD377-1 (試験片採取位置)を審議。

次回 10 月 6 日にこの断続審議を行なう。

11) JE4 関連業務

平成 5 年度 JIS 原案作成委託に関するアンケートを集計した結果を回答者宛回付 (09-21)。コメント締切 (10-20)。

12) 標準化委員会/JE5 分科会 (非破壊試験関係)

9 月 10 日第 1 回目のキックオフミーティング実施。分科会の組織、目的、活動方針等主査会社より一連の説明あり。

13) SI 単位小委員会

第 5 回会議を 9 月 11 日に開催し、JIS の SI 単位切換え後のフォローアップ (特に 5 N/mm^2 への数字のまるめ方)及び計量法の改正に伴う対応について意見交換を行った。

3. TC17 幹事国業務

(1) 国際規格発行に関する進捗状況

1) DIS 改訂版が中央事務局へ返却されたもの: 2 件

DIS4955 (SC 4) 耐熱鋼 (09-29)

DIS6316 (SC 12) 構造用熱延帯鋼 (09-29)

2) DIS 投票結果及び各国コメントが SC へ回されたもの: 3 件

DIS10702 (SC1) N の蒸留滴定法 (09-28)

DIS4991 (SC11) 圧力用途用鋳鋼 (09-07)

DIS11496 (SC19) 管端の超音波探傷事件 (09-21)

3) SC が DIS 登録を申請したもの: 2 件

CD10697-2 (SC1) 全 Ca の原子吸光法 (09-14)

CD10701 (SC1) S のメチレンブルー吸光度法 (09-14)

(2) ISO 中央事務局関連

1) 進捗管理

中央から送付された現状の各作業項目のステージと当 Secretariat 管理の進捗管理表対応チェック。

相違点の原因調査及び修正実施。

(3) TC17 全般

1) 1992 年 1 月～8 月の国際規格発行件数

9 件で今年中に発行されそうなもの 7 件を加えると 16 件と例年並み (過去 5 年平均で 16.2 件) になりそう。

2) TC17/EC 会議準備開始 (1993 年 5～6 月予定)

議題案検討。案の決定は、10 月 9 日 TC17 諮問部会。

3) ISO/TC17/SC 19 国際会議

・参加国 (9 カ国) (UK, USA, ポーランド, スウェーデン, 日本, フランス, チェコ, イタリア, ドイツ)

・参加者: 25 名

SC19/WG で検討された 7 件の非破壊検査に関わる CD, ステンレス鋼管の製品規格の CD2 件が討議。課題は多かったが、各委員積極的な討議で全体として大半が進捗し、会議は成功であったと考える。

TC17 Secretariat への課題として TC17/SC19 で作成した非破壊検査関係の標準を TC5/SC1 などへ適用する為の調整、促進があった。この件は現在 TC17/SC19 Secretariat と協議中。SC19 での ISO 規格と国家規格のあり方の考え方は、ISO 規格は基本的なところはしっかり決め、その他はフレキシブルに考えるべきという事。

(4) SC 1—分析—

DIS10702 (N の蒸留滴定法) の投票結果

P メンバー投票 賛成 12 票, 反対 1 票 (スウェーデン)

全メンバー投票 賛成 22 票, 反対 1 票 (スウェーデン)

(5) SC7—鋼質試験方法—

SC7 の Secretary が Mme. J. Verollet から Mr. P. Priester に変更された。

(6) SC11—鋳鋼—

DIS4911 (圧力用途用鋳鋼) の投票結果

P メンバー投票 賛成 8 票, 反対 2 票 (フランス, UK)

全メンバー投票 賛成 16 票, 反対 2 票 (フランス, UK)

(7) SC19—鋼管—

DIS11496 (管端の超音波探傷試験) 投票結果

P メンバー投票 賛成 12 票, 反対 2 票 (スウェーデン, USA)

全メンバー投票 賛成 18 票, 反対 2 票 (スウェーデン, USA)

(ミラノ国際会議結果) (討議結果を反映後)

CD10124.2 (層状欠陥検出用 UT): CD→DIS 登録申請

CD12094 (溶接管用帯鋼, 板の UT): CD→DIS 登録申請

CD12095 (液体浸透探傷試験): CD→DIS 登録申請

CD12096 (RT): 各国コメントを踏まえて修正案をドイツが作成

N339 (溶接線部分の UT): WD→CD 登録申請

N340 (管端の MT): WD→CD 登録申請

N341 (管体の MT): WD→CD 登録申請

CD9329-4 (継目無ステンレス鋼管): CD→DIS 登録申請

CD9330-6 (溶接ステンレス鋼管): 修正後もう一度 CD としてのコメント処理

4. TC17/SC1 幹事国事務 (関連業務を含む)

1. 承認段階 (Stage 4):

(1) DIS10702 (N-蒸留滴定法); DIS の投票完 (09-12).

2. 委員会段階 (Stage 3):

(1) CD10698 (Sb-無炎原子吸光法); DIS 登録中.

(2) CD10700 (Mn-原子吸光法); DIS 登録中.

(3) CD10278 (Mn-プラズマ); コンピーナーが最終 CD 作成中.

(4) CD10697-2 (Ca-原子吸光法); DIS 登録を中央事務局へ申請 (09-14).

(5) CD10719 (GC-燃焼赤外線吸収法); コンピーナーが最終 CD 作成中.

(6) CD10701 (S-吸光光度法); DIS 登録を中央事務局へ申請 (09-14).

(7) CD10720 (N-融解熱伝導率法); 再実験準備中.

(8) CD439 (Si-重量法); 最終 CD 作成中.

(9) CD11652 (Co-原子吸光法); 再実験準備中.

(10) CD11653 (Co-電位差滴定法); 再実験準備中.

(11) CD4941 (Mo-吸光光度法); コンピーナーが最終 CD 作成中.

3. 作成段階 (Stage 1/2): WG32~36 及び ad hoc 活動のための参加試験所募集中.

5. TC67/SC5 幹事国業務

1. 第 2 回 TC67/SC5 国際会議 (神戸) 準備状況

(1) 出席予定国 9 カ国 (TC67/SC5 P メンバー 14 カ国) 中国, フランス, ドイツ, イタリア, 日本, オランダ, ノルウェー, 英国, 米国 出席者合計 23 名 (議長, 事務局を含む)

(2) 提出資料 下記資料を事前に P メンバーに配布

資料 67/5N16 TC67/SC5 活動状況

資料 67/5N17 API 技術資料 (API Spec 5CT, 5D 以外) の ISO 化の進め方

資料 67/5N18 新作業項目 耐食用油井管

なお, CD11960 (API Spec 5CT 相当) ケーシング, チューブについて, ブラジル, ドイツ, 日本, オランダよりコメントを入手, TC67/SC5/WG1 の検討を要請

(3) 会議日程

TC67/SC5/WG1 10月19日, 20日

TC67/SC5 10月21日~23日

会場は神戸国際会議場 403 号室を予定

(4) 行事

TC67/SC5/WG1

歓迎レセプション 10月19日夜, 神戸国際会議場レストランで実施

会議出席者のみ参加を予定

TC67/SC5

歓迎レセプション 10月21日夜, ポートピアホテルで実施

会議出席者以外に鉄鋼各社よりの参加も含めて 30~35 名を予定

工場見学 10月22日終日

住友金属工業和歌山製鉄所の見学を予定

(5) TC67/SC5 諮問部会

上記国際会議の準備のため諮問部会を 9月22日に開催

6. 国際会議 (向こう 3 カ月の予定)

10月1日, 2日 TC67 総会 (ロンドン)

10月19日, 20日 TC67/SC5/WG1 国際会議 (神戸)

10月21日~23日 TC67/SC5 国際会議 (神戸)

10月21日~23日 TC17/SC7 国際会議 (パリ)

11月3日~6日 TC17/SC20 国際会議 (ベルリン)